

※発言をそのまま書き起こしたデータを基に、個人情報に関する部分を削除し、文意が通るように修正を行っています。

【プロジェクトの成果報告】

4. 「フォーラム」の社会実装に向けて

木村 浩（パブリック・アウトリーチ／研究代表者）

（司会） 最後に、研究代表者の木村から、『フォーラム』の社会実装に向けて」と題して、お話し申し上げます。


（木村） それでは、改めまして、「社会実装に向けて」というタイトルで、15分ほどお話ししたいと思います。「社会実装」とは、今回の研究成果をどうやって社会に役立つようなものにしていくか、というような意味です。

2

フォーラムが目指すもの

〔仮説〕 お互いが何らかの思い込みをして、お互いの考え方にギャップが広がった結果、コミュニケーションの不全と不信の悪循環を招いているのではないか。

- 「原子カムラ」という言葉は、相手への思い込みを顕著に表している言葉かもしれない。



〔目的〕 「フォーラム」での対話を通じて、市民と専門家が、お互いを尊重し、コミュニケーションできるようになることを目指す。

先ほどから出ていますけれども、フォーラムの目的を再度示させていただきます。

土田先生と竹中さんから、今回のフォーラムで市民と専門家の中にどのようなダイナミクスが起こったのか、というお話がありました。フォーラムは、お互いが尊重してコミュニケーションできるようになることを目指していました。今回の結果から言えることは、「お互いを尊重する」ことまではできたけれども、「コミュニケーションできるようになる」

というところまでは十分に到達できなかったかもしれない、ということです。先ほど竹中さんから話があったように、市民と専門家の態度の変容は非対称なところもあって、お互いに寄り添う「コミュニケーション」ができたと言断言するのは難しい。ただ、少なくとも前半の「お互いを尊重する」ことはできたので、フォーラムというシステムはお互いのコミュニケーションの土台にはなりうる、と言えらると思います。

このような成果をどうやって社会の中に示していくか、社会にうまく展開していくか、ということについてですけれども、やはり専門家 10 名、市民 10 名が集まって、運営者も同じくらいの人数が必要で、隔週で 5 回、3 時間半ずつやるというのは非常に大変で、これを国民全員に実施するのは難しいのではないかと、というような意見がよく聞かれます。私は、今回のフォーラムをそのまま全てのパターンに当てはめていけば、何か問題が解決する、というものではないだろうと考えています。フォーラムの中からエッセンスをしっかり整理して、そのエッセンスを他の事例に適用できるような形にしていくのが、ひとつの社会実装の形なのではないかと考えています。

3

社会への実装に向けて

① 「フォーラム」のシステム化

1. 「フォーラム」というコミュニケーション・システムについて要件の洗い出し、設計手順、適用限界をドキュメント化する。
2. 「フォーラム」運営に関わる資料・ノウハウを整理する。

② 「フォーラム」の試行に伴って明らかになった、より良いコミュニケーションに資する知見の整理

1. 原子力に関わるトピックに関する市民・専門家の認識マップ
2. 話を聞いてもらえる専門家の要件
3. フェース・トゥ・フェースによる市民と専門家のコミュニケーションによって、どのようなダイナミズムが生じるのかということに関する経験知

そういう意味で、具体的方策を 2 つ書かせていただきました。

1 つは「フォーラムのシステム化」、もう 1 つは「フォーラムの試行に伴って明らかになった、より良いコミュニケーションに資する知見の整理」と書かせていただいています。

今回、フォーラムというコミュニケーション・フィールドを試行して、あるレベルの目的を達成することができました。その中で、どのような要件が洗い出せたのか。どのような手順で設計したのか。また、どこまでが適用限界であったのか。こういった点を明らか

にすることが必要だろうと考えています。それを「フォーラムのシステム化」と表現しました。

また、いろいろな人たちとディスカッションをしながらフォーラムを進めてきましたので、運営に関わる資料やノウハウを整理して展開することが可能なのではないかと考えています。

つまり、フォーラムそのものを他のところにそのまま適用するのではなくて、ここから出てきた様々な要素、そしてその間のつながりなどを整理することによって、また別なものに展開できるだろう、と考えているわけです。

2番目は、学術的な展開ということになると思います。フォーラムでは、原子力に関するトピックについて、市民、専門家の中でいろいろと話し合っていました。そのときの会話は全て記録になっていますし、また、そのときにまとめた模造紙も全て電子データ化しています。そういうものを見ることによって、認識のマップが見えるだろうということです。これをもう少し整理することによって、いわゆる認知の分野においてのひとつのケーススタディが生まれるのではないかと考えています。

また、先ほど竹中さんの話の中にもありましたけれども、話を聞いてもらえる専門家の要件も整理できたと考えています。今回は、必ずしもお互いがお互いに近づいていくコミュニケーションができたわけではないのですけれども、少なくとも専門家が市民の要望に応じていくようなコミュニケーションとしてはうまく機能した例がいくつも見られています。それがなぜ機能したのかということについて、先ほど竹中さんからその一端を紹介してもらいました。そういった知見が整理できるだろうと考えています。

それから、大人数の聴衆に対して誰かが講演をする、という形の研究は多くなされていますけれども、お互いをもっと近い立場で、かなりコントロールされた場において、どのようなコミュニケーションが行われるのか、ということに関しての研究はまだまだ数が少ないと考えています。フォーラムで行われたコミュニケーションについてはかなり詳細に調査していますし、インタビューも行って、どのようなダイナミズムがあったのか、というところまで踏み込んだ分析ができています。これがすぐに一般化できるというわけではないですが、ひとつのケーススタディ、経験知として活用できるものができているのではないかと考えています。

このような2つの柱で、私たちとしては社会への実装ということを語りたいと考えているわけです。

②については、土田先生、竹中さんのお話の中でもたびたび出ていましたので、私からは①の具体的内容を紹介したいと思います。

コミュニケーション実現の機能要件

お互いに理解し、尊重する

- **お互いが異なることを知る**：お互いの普段の考え方や人柄などを知ることによって意見や判断、価値観が異なるものであることに気づく
- **共通点を知る**：お互いの中に共通点があることに気づく
- **異なることをあるがままに受け入れる**：個人個人で判断や価値観が異なるものであるということを「そういうものだ」とあるがままに受け入れる

お互いが変わろうとして、コミュニケーションする

- **自分が変わってもよいと思う**：自分と相手が歩み寄るために、自分が意見や判断、価値観を変えても良いと思う
- **相手が変わろうとしていることを知る**：自分と相手が歩み寄るために、相手が意見や判断、価値観を変えても良いと思っていることに気づく

まずは、「要件の洗い出し」についてです。

こちらは先ほど竹中さんの話の中にもありました、「コミュニケーションのステップ」です。お互いに理解し、尊重して、その上でお互いが変わろうとして、コミュニケーションする。その中には、このような押さえるべきポイントがあるのではないかと、ということで整理しています。

実際に、第2期のフォーラムは、この要件を基に設計されています。

フォーラム成立性の機能要件

参加者にコミット感を持ってもらうために

- **お互い対等であると認識する**：参加者どうして自分たちは対等であると認識する
- **お互い尊重されていると認識する**：参加者どうしてお互いに尊重されていると認識する

参加者から運営側の信頼を得るために

- **運営能力への信頼**：フォーラムを適切に準備し、運営する／参加者からフォーラムが適切に運営されていると認識される
- **話題が誘導されない**：運営側が話題を誘導しない／参加者から話題が誘導されていないと認識される
- **扱いの公平感**：運営側が参加者を公平に扱う／参加者から自分たちが公平に扱われていると認識される

また、本プロジェクトはコミュニケーションに関する研究なので、コミュニケーションについての分析を中心にご紹介していますが、実はフォーラムが成立するためには、コミュニケーションがうまくいくための要件だけでは不十分です。フォーラムという場が成立するための要件として、こういうものがあるだろうと整理しています。

まずは、参加者に、その場に参加しているという「コミット感」を持ってもらうために、お互いが対等であると認識する。「対等」というのは、発言の機会がなるべく公平に与えられる、意見が消されることはないなど、扱われ方が対等であるという意味です。それが参加者の中でちゃんと共有されていて、お互いに対等であるということを認識する、という意味で書かせていただいています。

また、お互いが尊重されていると認識することも重要です。

それから、参加者同士が対等感を感じ、尊重されているという関係作りができて、運営者が信頼を得なければ、そもそもフォーラムは成立しません。ということで、運営能力に対して信頼を得るための要件もまとめています。例えば、適切に準備をし、参加者からの要望に丁寧に答え、次の回には反映する、などが挙げられます。

運営側が話題を誘導しない、参加者から話題が誘導されていないと感じてもらうことも大切でした。運営側は原子力の回し者だ、と見られることもありますので、そうではないということを、運営の仕方で示すことも重要なポイントになります。ですから、先ほども申し上げましたが、テーマ設定には細心の注意を払いました。また、元気ネットさんにグループワークの支援をしていただいた、というお話をしましたが、その支援の方法も、誘導的にならないように、最低限に留めてください、と強くお願いしました。

また、公平感ということで、皆さんがなるべく公平に発言できるように、ルールの中に書き込む、というような工夫もしました。

①-1 設計手順		6				
目的の共有		I 判断や価値観に関する認識		II 態度に関する認識		
参加者がフォーラムの目的とゴールを常に確認できる		1. お互いが異なることへの認識	2. 共通点の認識	3. 異なることへの許容	4. 相手が変わらなうとする	5. 自分が変わらなうとする
参加者選定						
場の設計						
オリエンテーションの導入						
自己紹介						
話題の設定						
グループワーク						
全体共有						
今回の振り返り						
記録						
対話						
対話ルール						
ファシリテーター						
サブ・総合ファシリテーター・運営						
参加者選定						
場の設計						
オリエンテーションの導入						
自己紹介						
話題の設定						
グループワーク						
全体共有						
今回の振り返り						
記録						
対話						
対話ルール						
ファシリテーター						
サブ・総合ファシリテーター・運営						

※H25年度報告書Ver.

このような要件をどうやって設計に落とし込んだか、ということも少しご紹介しておきたいと思います。

この表の横軸に先ほどの要件が整理されています。左がコミュニケーションの実現のための機能要件、右がフォーラム成立のための機能要件になっています。

縦軸には、フォーラムの構成要素を並べています。最初に参加者選定があり、場の設計があり、オリエンテーションや自己紹介、話題の設定、グループワーク、全体共有、というように、様々な要素がフォーラムを成り立たせているわけですが、それを分解して並べています。さらに、全体に関わるような要素として、対話、対話のルール、ファシリテーションやそれを支援する人、などの要素が挙げられます。

このような軸を立て、それぞれのどのような要件が求められるのかを整理していきました。

今回のフォーラムは、こういう要素があったから、こういうところに気をつけましょう、という設計をしたわけですが、場が異なれば縦軸の要素が変わってくることもあるでしょうし、目的が違えば横軸の要件が変わってくることもあると思います。しかし、このような手順そのものは、ひとつの展開可能な財産になるだろうと考えているわけです。

①-1 適用限界 7

コミュニケーション実現の観点から

- 「お互いが異なることの認識」「共通点の認識」については、市民参加者、専門家参加者の両者とも、おおむね達成できていた。
- 「相手が変わろうとしていることの認識」「自分が変わろうとする気持ち」については、市民参加者と専門家参加者で、考え方のギャップが見られる。
 - 市民参加者は、自らが専門家に近づこう、近づいていかなければいけないと思う人が多い。
 - 専門家参加者は、市民が自分たちに近づいてくるものだと思う人が多く、知識の提供を重視する。
- 最初は「専門家 VS 市民」という構図であるが、3回程度のフォーラムを経験することで、「みんな1人の人間である」という視点に切り替わる可能性が見られた。

①-1 適用限界 8

フォーラム成立性の観点から

- 「運営能力への信頼」「運営が話題を誘導しない」「参加者の公平感」については、市民参加者、専門家参加者の両者ともに、おおむね認識できていた。
 - 特に「話題を誘導しない」という点については、話題設定や対話の進行補助において、特定の意見を誘導しないよう、また、参加者主導となるように、スタッフ一同で慎重に対応した。
- 「参加者間の対等感」「参加者間の尊重感」についてはその認識は個人差（特に市民参加者と専門家参加者の間で）が大きい。
 - 市民参加者と専門家参加者では、原子力に関する知識量の差などもあり、（スタッフから参加者は対等であると繰り返し述べたとしても）対等感を感じてもらうのは困難であった。
 - 「相手が変わろうとしていることの認識」「自分が変わろうとする気持ち」に見られる考え方のギャップが、市民と専門家を対等でないと思わせてしまっている。

また、今回のフォーラムを他に適用しようと考えたときには、その限界も考えておく必要があります。フォーラムそのものを少し変えて導入したいときには、どこまでできるでしょうか、ということを知るように整理をしておこうということです。

読み上げることは省略いたしますが、こういうものも整理して、しっかりと次の学問に寄与していく、ということを考えています。

①-2 資料・ノウハウ 9

コミュニケーション・ルール

1人の参加者として ▶▶▶

- 「私は」という一人称で話す**
 - 「私の意見」を言うことが大切です。「私たち市民は」「われわれ専門家は」という話し方はしないように意識しましょう。
- 誰かが話しているときには、その人が話していることをしっかり聞く**
 - 他の人の話を聞くことに専念し、自分が次に何を話そうかなどと考えないようにしましょう。
- 否定の言葉から話し始めないように気をつける**
 - 「いや、そうではなくて、・・・」ではなく、「なるほど、そのような考え方もあるんですね。私の意見はそれとは異なりますが、・・・」といった形です。
- 1人が1回に話すのは1分以内が目安**
 - 1人が話し過ぎない目安として、制限時間をセットしてみましょう。
- グループみんなで、ファシリテーターを助ける気持ちを持つ**
 - ファシリテーターはグループの話し合いをまわすために、慣れないながらも、献身的な働きをしてくれています。ファシリテーターには感謝を持って接しましょう。

資料・ノウハウに関しては、例えば、フォーラムで用いたルールが他の場でも適用可能であると考えています。

例えば「コミュニケーション・ルール」などが挙げられます。我々の研究としては、「コミュニケーション・マニュアル」を作成して、ホームページで公開しています。しかし、これは 20 ページ弱のマニュアルになっていますので、全てを実践するのは非常に難しい。

そこで、その中からエッセンスを抜き出したのがこちらのルールになります。第2期のフォーラムでは、このルールを皆さんと共有して、ルールを守ったコミュニケーションを徹底することによって、お互いの理解、尊重を促しています。

①-2 資料・ノウハウ	10
<h2>ファシリテーション・ルール</h2>	
ファシリテーターになったら ▶▶▶	
<hr style="border-top: 1px dotted #008000;"/>	
<ul style="list-style-type: none">● グループの話し合いをまわすことに専念する<ul style="list-style-type: none">- ファシリテーターの役割は話し合いをまわすことです。自分の意見を言うことは、なるべくひかえましょう。● 誰かが話しているときは、その人が話していることをしっかり聞く<ul style="list-style-type: none">- 他の人の話を聞くことに専念し、次はどのように展開しようかなどと考えないようにしましょう。● なるべく全員に話題を振って、みんなに話してもらう● どんなに簡単な状況でも、相手の名前を呼ぶ	
サブファシリテーターとは・・・	
<ul style="list-style-type: none">● サブファシリテーターとは、ファシリテーターを支援するために、運営者が準備したファシリテーションの経験者です。● その役割は、基本的には記録（書かれていない発言を付箋に書き出し、模造紙に貼る）です。● ファシリテーターがルールを回しきれていないときに、それをファシリテーターに指摘したり、ファシリテーターの作業を支援したりします。● ファシリテーターは、この場をどうおさめてよいかわからない、このあと何をしたらよいかわからなくなった、などの場合に、サブファシリテーターに相談するようにしてください。	

また、フォーラムの中では、ファシリテーターを我々運営者がやるのではなくて、参加者の方にくじ引きでお願いするという方法を採用しました。ファシリテーションのやり方も、簡単なルールを決めて、皆さんに共有しました。

グループワークのサポート資料

グループワーク1 (75分)

原発は本当に必要なものなのか？ 原子力発電所なしで電力は「本当に」足りるのか？

	目安
0. みんなでこの用紙を確認しましょう。	0-15分 (15分間)
1. まず、「原子力発電を必要と思う理由」を整理します。「原子力発電を必要と思う理由」を書き出します。自分が必要だと思っても、必要と思う人が必要と思うのかを考えて、書いてください。3分程度を区切って、ファシリテーターも含めて各自が理由を付箋に書き、手元にストックしておいてください。1枚につき、1つの理由です。理由の質にはこだわらず、たくさん理由を書くように心がけます。	
2. 1人ずつ理由を読み上げながら、模造紙に貼っていきます。どのような意見が出ているかをみんなで確認しましょう。	
3. 貼られた付箋をグループピングしてみましょう。グループを作ったら、それぞれ一言でタイトルをつけましょう。	
4. 次に、「原子力発電を必要ないと思う理由」を整理します。「原子力発電を必要ないと思う理由」を書き出します。自分が必要だと思っても、必要ないと思う人が必要ないと思うのかを考えて、書いてください。3分程度を区切って、ファシリテーターも含めて各自が理由を付箋に書き、手元にストックしておいてください。1枚につき、1つの理由です。理由の質にはこだわらず、たくさん理由を書くように心がけます。	15-30分 (15分間)
5. 1人ずつ理由を読み上げながら、模造紙に貼っていきます。どのような理由が出ているかをみんなで確認しましょう。	
6. 貼られた付箋をグループピングしてみましょう。グループを作ったら、それぞれ一言でタイトルをつけましょう。	
ここまで模造紙をホワイトボードに貼って、新しい模造紙を準備します。	
7. ホワイトボードに貼られた模造紙に対して、自由に意見を書き出します。3分程度を区切って、ファシリテーターも含めて各自が意見を付箋に書き、手元にストックしておいてください。1枚につき、1つの意見です。意見の質にはこだわらず、たくさん意見を書くように心がけます。	30-40分 (10分間)
8. 1人ずつ意見を読み上げながら、模造紙に貼っていきます。どのような意見が出ているかをみんなで確認しましょう。	
9. 意見に対して、質問やコメントを自由に言っていきます。また、意見と意見のつながりについても、コメントしましょう。ここでの発言は、サブファシリテーターがキーワードを付箋に書き出し、発言者に確認しながら貼っていきます。ゆっくりと落ち着いた話し合いを進めてください。	40-60分 (20分間)
10. 貼られた意見をグループピングして、それぞれ一言でタイトルをつけましょう。その後、それぞれの意見やまとまりについて、「見える化」しましょう。	60-75分 (15分間)
模造紙にまとまったら、ホワイトボードに貼ります。発表の確認をしてください。	
○ グループワーク開始 30分と終了 5分前に総合ファシリテーターがアナウンスします。	
○ 発表は 5分です。必要と思う理由・必要ないと思う理由についての「グループピングの結果」と、後半の話し合いで「盛り上がった話題」「見える化の結果」を中心に発表しましょう。	

グループワーク2 (30分) … 質問への回答をつくる

	目安
0. みんなでこの用紙を確認しましょう。	0-10分 (10分間)
1. 模造紙に貼られている質問を、グループピングします。	
2. 重要と思うグループの優先順位を決めて、2つを選び、それぞれ代表質問者を選び、もしくは、作りましょう。(答えずでいいようにしましょう。) 優先順位の問題(①、②)のところに、代表質問を書きましょう。そして、付箋全体を並べ替えます。なお、模造紙の使い方は、サブファシリテーターに聞いてください。	
3. ①の質問について、3分程度時間を取って、各自、付箋に回答を書きましょう。うまく文章にならない、回答が長くなる、などの場合は、キーワードを書きましょう。書いた回答は手元にストックしておきます。	10-20分 (10分間)
4. 質問の回答を順番に読み上げながら、模造紙に貼っていきます。どのような回答が出ているかをみんなで確認しましょう。	
5. 出てきた回答を分類したり、話し合ったりしながら、回答をまとめていきましょう。ここでの発言は、サブファシリテーターがキーワードを付箋に書き出し、発言者に確認しながら貼っていきます。ゆっくりと落ち着いた話し合いを進めてください。	
6. まとめた回答を模造紙に書きます。わかりやすい場所に書いてください。	
7. ②の質問について、3~6の手順を繰り返し、回答をまとめます。	20-30分 (10分間)
模造紙にまとまったら、ホワイトボードに貼ります。発表の確認をしてください。	
○ グループワーク終了の 10分前と5分前に、総合ファシリテーターがアナウンスされます。	
○ 回答は無理に1つにまとめる必要はありません。まとまらないときは、それらを併記しておきましょう。	
○ ①の回答をまとめることに時間がかかっても構いません。①の回答をしっかり作ってから、②の回答に取り掛かってください。(②は途中で構いません。)	
○ 発表は 3分です。「選んだ(作った)質問」「まとめた回答」を中心に発表しましょう。	

ただ、いきなりファシリテーションをしてください、と言われても、戸惑う方も多いと思います。それをフォローするために、グループワークのサポート資料を作りました。どこでどういうことをやればいいのかを書き込んでありますし、ファシリテーションに自信がなければ、これを1項目ずつ読んでいくだけで、ある程度進行ができるようになっていきます。

実は、グループワークのサポート資料はかなり好評でして、すでに、他のワークショップなどで利用しているという話もございます。

記録

- フォーラム運営の公正のために、対話は録音して書き起こし、個人情報や不適切発言等を消した上で、すべてホームページに公開
- 発言の記録をわかりやすくするための資料として、グループワークでまとめたシートも公開

A班GW1-1 原発は本当に必要なものなのか？ 原子力発電所なしで電力は「本当に」足りるのか？

原子力発電所を必要と思う理由 原子力発電所を必要ないと思う理由

安定供給 1 安定供給が確保できない 2 ペースに合わせた発電が難しい 3 発電スペースが狭い 4 燃料の確保が難しい 5 燃料の確保が難しい 6 燃料の確保が難しい 7 燃料の確保が難しい 8 燃料の確保が難しい 9 燃料の確保が難しい 10 燃料の確保が難しい	経済性 11 原子力発電はコストが高い 12 コストが安い 13 原子力発電はコストが安い 14 原子力発電はコストが安い 15 原子力発電はコストが安い 16 原子力発電はコストが安い 17 CO2削減が難しい 18 原子力発電はコストが安い 19 原子力発電はコストが安い 20 原子力発電はコストが安い	CO2 21 CO2削減が難しい 22 CO2削減が難しい 23 CO2削減が難しい 24 CO2削減が難しい 25 CO2削減が難しい 26 CO2削減が難しい 27 CO2削減が難しい 28 CO2削減が難しい 29 CO2削減が難しい 30 CO2削減が難しい	代替 31 再生可能エネルギーが足りない 32 再生可能エネルギーが足りない 33 再生可能エネルギーが足りない 34 再生可能エネルギーが足りない 35 再生可能エネルギーが足りない 36 再生可能エネルギーが足りない 37 再生可能エネルギーが足りない 38 再生可能エネルギーが足りない 39 再生可能エネルギーが足りない 40 再生可能エネルギーが足りない
---	---	--	---

は本当に必要なものなのか？ 原子力発電所なしで電力は「本当に」足りるのか？ 質問への回答

の判断基準

②コストのものは？

回答：コスト・安全・環境問題を発電方式毎に比較して判断する

<http://www.ponpo.jp/forum/forum.html>

また、記録も大切なものだと思います。

このスライドの下に示しているように、グループワークでまとめたシートを公開しました。

また、今回我々が徹底したのは、対話を録音して、書き起こして、原則全て公開する、ということです。その記録を周りの人が読んでいくかという、そういうわけではないのですが、参加者はかなり目を通されていたようです。そうすると、「ああ、あのときこんなことを言っていたな」「ああ、あのときのこんなことまで全て公開しているのか」ということで、運営に対しての信頼が少しずつ増した、ということも見えてきています。今回記録を徹底したことは、そういう意味でうまく機能したと思っています。

社会への実装という観点から

- 「フォーラム」というコミュニケーション・システムを社会に展開するための素材をいくつか紹介してきた。
- 本コミュニケーション・システムは、「**思い込みと不信によるコミュニケーション不全という状況**」から、リスク・コミュニケーションをするための「**最初の一步を踏み出す = お互いの思い込みを打破し、お互いをひとりの人として認識する**」ためのシステムとして、機能する可能性が示されている。
- **特定の専門家が必要とされず、また、ファシリテーションのスキルもそれほど必要ない**（設計および資料に沿って行うことができれば十分な）システムとして設計されている。
- 原子力に限らず、さまざまなトランス・サイエンス領域の問題解決に貢献することのできる「**社会技術**」であると考えている。

ここまで、いくつか事例を紹介してきましたが、最後に簡単にまとめを紹介して、私の発表を終わりたいと思います。

本コミュニケーション・システムは、思い込みと不信によるコミュニケーション不全という状況から、最初の一步を踏み出す、つまりお互いの思い込みを打破して、お互いを 1 人の人として認識するためのシステムとして作ったわけですが、その点では機能する可能性が十分に示されたと考えております。

また、特定の専門家が必要とされないし、ファシリテーションのスキルも、先ほどのようなツールをうまく適用することによって、それほど必要のないシステムとして成果が出ているというのもひとつのポイントだと考えています。

ということで、本システムは、原子力に限らず、さまざまなトランス・サイエンス（科学技術と社会との問題領域、さらには社会問題の領域）にも応用できるのではないかと考えております。

本プロジェクトは残り 3 か月ということですので、さらにブラッシュアップして、整理して、報告書をよりよいものにまとめていきたいと考えています。

ということで、前半の講演はここまでで終わりにしたいと思います。どうもありがとうございました。（拍手）

（司会） どうもありがとうございました。もしご質問があるようでしたら、青い紙にお書きください。

それでは、今から 20 分間休憩を取りたいと思います。2～3 分お時間を取りますので、青い紙にご意見、ご質問などをご記入ください。その後スタッフが青い紙を集めにまいります。